















朝日山





集印所

東印所

集印所

平等院

当山





重要文化財 奈林庵書院

此屋は慶長六年(1601)年、
外庵書院より移建したと
いわれる。
中央には東水の三葉の入、
松花堂乗による「奈林庵」の
額がかかる。内壁には詩野山房上寺
による絶句一聯に題写。山房による
墨壁、「曾毛桜洞山水圖」等を
残している。落書きの書院とも云
ふ。室主といふのをも持つ。
庭内に「桃山勝景」を有す。
細川土舎(土御門)の作といわれ
る。此様な名庭山風と見事に
調和する。

重要文化財 養林庵書院

単層入母屋造檜皮葺

養林庵書院は慶長六（一六〇一）年、
加傳和尚が伏見城より移建したと
伝えられる。

広縁中央には寛永の三筆の一人、
松花堂昭乗による「養林庵」の
扁額がかかり、内部には狩野山雪工房
による襖絵「籬に梅図」、山樂による
床壁絵「雪景樓閣山水図」が描か
れている。落ち着いた書院と仏間、
茶室という三つの要素を持ち、
随所に桃山様式を残す。

細川三斎（忠興）の作といわれる
洗練された平庭枯山水と見事に
調和する。



平等院 旧 南 門

安土桃山時代

伏見桃山城からの移構とされ、江戸時代初期伝來の各種古図と比較しても場所・規模ともに変動がない。垂木等も江戸時代以前の特徴である先端が細く大胆な反りで、天井板を備えた古式武家門の姿を良く残す。平成22年夏の古典技法による再塗装工事の際、主要部材の殆どが希少な赤檜（アカガシ）の巨木であることが判明。固く火に強いことから戦国期の城門などに使用されたことが記録に残るが、ねじれが起きやすい檜（かし）材による建造物はこれまで日本で確認されたことがなく、城造りの天才として知られた秀吉による城門「薬医門」の現存する最古の建築として注目される。

伝統的な顔料で塗装をしています。
服などに色が付きますのでご注意ください。
WET PAINT PLEASE DON'T TOUCH!

平等院南門

平等院南門
重要文化財
平等院南門は、南北朝時代に建立されたもので、現在の建物は江戸時代の改築による。門柱は赤い漆喰で塗られ、屋根は瓦葺きである。







